

サウジからの輸入量なんと 24 千ト 前年の 5.7%にとどまる  
米国からの輸入比率 72.2%  
～2019 年度上期 L P ガス国別輸入状況～

2019 年度上期 (4～9 月) の L P ガス輸入状況が判明した。上期の L P ガス輸入量は、需要の微増と上期後半の一次基地在庫の高水準を反映して前年同期比 0.7%の 5,202 千トと横ばいとなった。上期の輸入量が 500 万トを上回ったのは 2 年連続。プロパン・ブタン別には、プロパンが同 3.4%減の 4,230 千ト、ブタンが同 23.5%増の 972 千ト。上期に前年同期比 15.0%も需要が伸びたブタンの輸入増が目立った。

国別輸入で特筆すべきは、サウジアラビアからの輸入がわずかに 24 千トにとどまったことだ。前年上期の 5.7%しかなかった。5 月に輸入されただけで、6 か月間で V L G C 半杯分しかなかった。数年前までは年間 700 万ト強、上期で 300 万ト以上がサウジから輸入され、サウジ輸入依存率は 55%だったのに、今年度上期のサウジからの輸入比率はなんと 0.5%に過ぎない。

サウジを含む中東産ガス国からの輸入比率もかつては 80%を超え、「脱中東・輸入ソースの多元化」が国の政策としても業界挙げての施策としても取り組まれたものだ。「地政学リスクの大きい中東に頼る以上、民間備蓄・国家備蓄の保持は国是」とされ、巨額のコストと人を割いて取り組んできた。この結果が「L P ガス料金は高い！」の一因となり、需要増加を阻害してきたのは周知のとおり。

サウジに代わって輸入が急増したのが米国。2019 年度上期も前年同期比 7.3%増の 3,755 千トとなった。米国からの輸入比率は 72.2%となった。プロパンに限るならば、なんと 80.9%が米国からの輸入となった。また、今期からはカナダからも 195 千トのプロパンが新規に輸入され、北米からの輸入比率は L P ガス計で 75.9%、プロパンで 85.5%となった。

サウジからの輸入ターム契約量はこれほど少ないわけではないが、輸入量がこれほど減少したのは米中貿易戦争が大きく影響している。米国産 L P ガスを中国の輸入業者が輸入すると 25%もの関税がかかるのは周知のとおり。中国は中東産 L P ガスの輸入を急増させた。この結果、夏場には C F R 中国と C F R 日韓の市況が大きく乖離。極東市場には米国出しカーゴが潤沢に入着を続けるのに中国勢がこれを購入しない。米国産の特にプロパンカーゴはジャブジャブになってしまった。9～10 月入着物では、C F R 中国が「C P プラス 70 ドル」の高値となったのに対して、C F R 日韓は「C P イーブン～精々 10 ドル程度」となった。トレーダーは中東産カーゴをアジア・極東市場で追加手当てして中国へと輸送したわけだ。中国勢も急増させた P D H (プロパン脱水素) プラント用のプロパンが必要。エチレンと違ってプロピレン市況が高値だったこともあって、割高なプロパン手当てを続けたわけだ。10 月半ばからプロパン需要期本格化に備えて日韓なども買いを増やしているため、米国産プロパンカーゴも需給が次第にタイト化しており、現在では C F R 中国と C F R 日韓の格差は 20 ドルほどの中国高に縮小している。

2019年度上期のLPガス国別輸入状況は次のとおり。

国名	プロパン		ブタン		計	
	(t)	(%)	(t)	(%)	(t)	(%)
サウジアラビア			23,502	16.9	23,509	5.7
クウェート	133,959	88.2	99,914	187.0	233,873	113.9
カタール	111,376	61.6	89,377	63.4	200,753	62.4
アブダビ	157,623	81.3	229,133	132.9	386,756	105.6
バーレーン	11,202	130.0	25,978	339.0	37,180	228.4
中東計	414,160	51.3	467,904	91.0	882,064	66.8
米国	3,423,889	101.0	330,950	305.8	3,754,839	107.3
オーストラリア	163,173	145.7	152,887	104.4	316,060	122.3
東ティモール	33,497	134.2	20,462	109.7	53,959	123.7
カナダ	194,932				194,932	
合計	4,229,651	96.6	972,203	123.5	5,201,854	100.7

(注) LPガスの更に詳細な輸入状況については、会員の皆さまに提供させていただきますので、お問い合わせください。